

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600364		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームおやふね		
所在地	石狩市親船町20番地1		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人個人の生活習慣を尊重し、家庭の延長として生活が出来るように支援しています。医療機関との連携を密にして、健康不安の軽減を図ります。親会社が給食事業を行っている強みを活かし、治療食に対応します。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0197600364-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0197600364-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石狩温泉「番屋の湯」や石狩市観光センター、郵便局、バス停から近い便利な場所に位置し、周囲は石狩川や海岸に近いなど環境に恵まれた所に位置する1ユニットのグループホームである。建物は平屋建てで玄関前にゆったりとしたスロープが設置されている。建物内の共用空間が広く開放的で、事務所や広い台所から共用空間全体を見渡することができる。窓も広く、夏には広いウッドデッキに出て周囲の景色を楽しむことができる。建物全体が床暖房になっており温度が快適に保たれ、加湿器で湿度も調整されている。トイレや浴室、洗面所も広くて使いやすい。法人が道内で数多くのグループホームや老人ホーム、高齢者住宅等を経営していることから、書類やマニュアルが整備され法人主催の研修も行われている。管理者が4か月前に替わったばかりだが、法人のバックアップを得て書類の整備や運営に問題意識をもって前向きに取り組んでいる。職員も明るくて笑顔が絶えないことから、利用者も毎日の生活をゆったりと楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で意見を出し合い、作成した理念をホーム各所に掲げ、ケアを行ううえでの指針にしており、カンファレンスの時にも新しい取り組みが理念に即しているかを確認している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた5項目からなる理念を、玄関、事務室、職員休憩所に掲示し、毎月のカンファレンスで確認しているが、新入職員が多いこともあり理念の共有化を進めているところである。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ参加し、敬老会や夏祭りなど地域の行事へ参加をしている。	町内会行事の清掃に職員と一緒に利用者も参加している。また、散歩のときは近所の方と会話を交わすなど地域との交流が深まっている。学童保育との交流や近隣の小学校との交流はまだ行われていない。	前年度の外部評価で課題であった学童保育との交流に加えて近隣の小学校との交流への呼びかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そこまでの取り組みは出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実施内容、行事活動報告などの話し合いを行っている。参加者が少ない為、日程の調整などに取り組んでいるが増加はしていないのが現状である。	会議は2か月に1度、地域包括支援センター職員と民生委員の参加を得て行われており、議事録も全家族宛に送付しているが、年間を通したテーマの設定は行われていない。また、今年度は町内会役員や家族の参加は得られていない。	前回の外部評価で課題であった年間を通したテーマ設定の取り組みに期待したい。また、町内会役員や家族への参加の呼びかけを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居の相談や各種制度の利用相談や勉強会の連絡などで連携がとれている。	管理者は、事業所の状況の報告等で月2、3回は市役所を訪問して担当者と情報交換をし、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や研修会などで支援についての話し合いの場が持たれており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルが整備されており、職員は、毎年1回法人の社員研修で身体拘束について学んでいるが、事業所内での勉強会等は行われていない。	前回の外部評価で課題であった、身体拘束の「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」等について、マニュアル等を参考にした定期的な勉強会の実施を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や研修会などで支援についての話し合いの場が持たれており、虐待防止に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム おやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会は開催されており、外部研修などに参加して学ぶ機会を増やしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に十分な説明を行っており、理解、納得を図っている。改定時の際は、本社より書面での説明と電話連絡、ホーム来訪時には管理者からも説明し理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は自ら訴える事はなかなか出来ないケースが多いが、普段の生活の中から感じ取り、カンファレンスなどで内容を確認している。家族には面会時に積極的に近況を伝え、意見を聞く事で運営に反映させている。	家族が訪問した時や介護計画の見直し時に家族の意見を「申し送りノート」に記載する仕組みであるが、意見や要望の記録は少ない。また、写真中心の広報誌「おやふね便」を2、3か月に一度発行している。	家族の訪問時に意見を聞き、運営推進会議でも事前に意見の提出を受ける等の取り組みを期待したい。また、お便りの定期発行回数の増加も期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議などにおいて意見、要望を聞き、月1回の月例会議にて運営者に報告している。	毎月のカンファレンスで職員が意見交換しており、管理者は随時職員の意見を聞いている。また、月ごとに行事の担当職員を割り当てて企画の段階から参加させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事部より職員に対して就業環境、希望調査などのアンケートを毎年行っており、意見が反映されやすい環境が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で取り組んでいる階層別研修、目的別研修は盛んに行われており、積極的に参加し職員を育てる取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの集まりへ参加したり、同法人の内部研修会などで職員同士の交流する機会を設け、サービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談をさせていただき、支援の必要な事や、趣味嗜好などをケアに取り入れ、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ごとに異なるニーズや方向性に対応する為、入居前に面談を行い、より良い関係性に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族記載のフェースシートと実際が違う事があるが「その時」で見極めて変更して、必要な支援を出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況を見極め、一緒に食事準備、片付けなど出来る範囲で行い、お互いに信頼し合い、立場をわきまえ、快適に過ごせるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を家族に逐一報告し、家族と一緒に本人に対して何を支えていくのが良いかを考え行動している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの物を持って来てもらってる。また友人、知人が訪問してきても自由に面会をしてもらってる。	毎月のように元近所の方の訪問がある利用者や、2、3か月に一度知人の訪問がある利用者があるので、居室に案内してお茶を提供し、ゆっくり話をしてもらっている。電話の取次ぎや手紙の代筆も職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要以上の介入は避け、入居者同士で身体を心配し合ったり、孤立する事の無いようにさり気なく関わりを持つように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じ、相談にのって対応して支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や家族からの情報を元に会話に重点を置き、把握に努めている。希望を出すことが困難な場合は表情、暮らしぶり等を通して検討している。	センター方式のアセスメントシート等を活用して利用者の思いや意向を把握しているが、管理者兼計画作成担当が4か月前から替わって、様式も変更となり、現在整備を進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントツールを利用し、家族から情報収集をしたり、日頃の会話を通し、興味のある事などを把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録やケアカンファレンスなどを通して現状の確認と把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからケアカンファレンスだけではなく、日常業務などの報告から情報を得る。また直接ご本人へニーズ確認やご家族来訪時などに意見を求めるなどして作成している。	3~6か月の期間で、利用者毎にモニタリングし、サービス担当者会議を経て介護計画を見直している。計画作成担当者と様式が変更となり、書類の整備はやや遅れているが、体制が整いつつある。日々の記録も介護計画を意識しながら記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記載して、職員全員で情報を共有し介護記録の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務をあまり詰め込み過ぎずにして、急なニーズに対応出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したり、ボランティアセンターを活用するなどして、地域で楽しみを持てるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療はご家族同意うえで開始し、その他の必要な受診もご本人、ご家族と相談し受診している。	協力医療機関の内科医が2週間に1度、訪問看護が1週間に1度あり、内科以外の通院支援も事業所で行っている。医療情報は「医療記録」と「薬剤情報」に記録し全職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護により、日常の健康管理を行い必要時にはいつでも連絡、相談出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を結んでいる病院はもとより、その他の地域の病院とも連絡をとり、情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針として説明し、同意を得ている。	利用開始時に「入居者様が重症化した場合の対応に係る指針」をもとに本人・家族に説明し署名捺印を得ている。現状では看取りのケースはないが、今後は、書類も体制も整備し前向きに取り組む方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に対するマニュアルは全員把握している。職員は交代で研修等に参加して他職員にフィードバックを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、町内会からも協力を得ている。	消防署の協力を得て年2回の昼夜を想定した避難訓練を行い、民生委員の方にも参加を得ている。前年度の取り組み事項であった災害時に必要となる備蓄品等の準備と救急救命訓練の定期的な受講はまだ行われていない。	災害時に必要な備蓄品等の準備と職員の救急救命訓練を定期的に行う取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方々に合わせた声掛けや対応をし、ご本人のプライドを傷つけないよう配慮している。	利用者への呼びかけは名字か名前に「さん」づけとし、職員は法人主催の研修で接遇やマナーを学んでいるが、新入職員も多いことから現在指導中である。個人記録類は事務所の鍵のかかる棚に安全に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けではなく、自己決定が出来るような声掛けを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の時間は目安であり、一人一人の生活リズムに合わせた支援が出来るように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の着替えや準備、外出時の洋服などをご本人と選ぶようにしている。鏡やブラシなども用意している。		

ふれあいの里 グループホーム おやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせて片付けなどを一緒に行っている。行事として、一緒に調理できるメニューを提供し、オヤツはなるべく手作りのものを提供するようにしている。	利用者は身体能力に応じて下膳や食器拭きを手伝い、職員も一緒に同じもの食べている。畑で採れた苺も食卓に上り、誕生日には職員がケーキを手造りしている。献立は法人によるものだが、行事に合わせて変更し、外食や出前も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の嗜好や嚥下能力に合わせた食事形態で食事や水分を提供し、食事量、水分量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行われていない。朝夕のみであり、個別の状況でひつ世に応じて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い、排泄間隔を把握しやすいようにしている。適時声掛けなどを行い、自立に向け支援している。	全員の「排泄・水分表」によりパターンを把握し、誘導が必要な方は呼びかけに直接的な表現を避けるなど羞恥心に配慮して行っている。夜間にベッドでパッド交換する方も一部いるが、昼夜ともできるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳や乳製品を飲んでもらうなどして便秘予防に取り組んでいる。また訪問診療などの際にも医師へ相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の固定はせず、入浴の間隔の開いている方から順に声掛けを行い、週2～3回入浴してもらるようにしている。季節に合わせた入浴剤も活用している。	日曜以外の毎日入浴可能で、午後の時間帯で各利用者が週2回を目途に入浴している。強い拒否がある方は回数が減るが清拭などで対応している。希望に応じて同性介助したり、入浴剤を使い、快適に入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせて室温、湿度、音等の環境調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をスタッフがいつでも確認出来るように設置している。種類や量など変更のあった際には申し送りや日誌を用い、全員に伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味嗜好に合わせ、楽しみを持ち続けられるように支援している。		

ふれあいの里 グループホーム おやふね

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体調を考慮し天気の良い日は近隣を散歩したり、外出行事等で季節感を味わってもらっている。	天気の良い日は近くの河原や海を見に散歩しており、庭に面したウッドデッキで外気浴も行っている。年間行事では買い物ツアーや日帰り入浴、動物園、地域の敬老会などに出かけている。今後は冬季の外出機会の増加も検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で個々の預かり金は無いが、会社立替金としてご家族の了解を得て、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により対応している。頻回な場合はご家族に相談し、協力していただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着ける環境作りに努めている。また、季節感のある飾り付けなどを工夫している。	共用空間は広く開放的で、事務所やキッチンから共用空間全体を見渡すことができる。壁には行事の写真や季節の装飾、利用者の塗り絵や折り紙の作品が飾られ、親しみやすい雰囲気となっている。床暖房で温度が快適に保たれ、加湿器で湿度も調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由な場所で過ごしていただき、窓際のソファーやテレビの前などで、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら安全に配慮して、出来るだけ馴染みの物を持って来て貰っている。	居室の入口には手づくり個々の表札があり、室内は利用者が自由にテレビや家具、ぬいぐるみなどの飾り物を持ち込み、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや家族の写真、色紙などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、室内全てがバリアフリーになっており、トイレの場所などをわかりやすいように表示したりしている。		

## 目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームおやふね

作成日：平成 26年 12月 24日

市町村受理日：平成 26年 12月 25日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	学童保育との交流に加えて近隣の小学校との交流への呼びかけをする。	・子供たちとの継続的な交流を持つ。	・学童保育や小学校側の都合やニーズなどを確認して、行事の時など交流機会を持つ。	1年
2	4	運営推進会議にて年間を通したテーマを設定。また町内会役員や家族への参加の呼びかけをする。	・町内会役員の定期的な参加を得る。 ・テーマを設定して計画的な会議運営を行う。	・町内会総会などへ出席し、協力を要請する。 ・毎回のテーマを定め、事前に周知して意見を募り、会議内で検討する。	1年
3	6	身体拘束の「指定基準における禁止の対象となる具体的行為」等について、マニュアル等を参考とした定期的な勉強会の実施をする。	・定期的な勉強会の機会を設け、ケアの質の向上、意識の統一をはかる。	・グループ内の研修会へ計画的に参加出来るよう勤務調整を行う。 ・毎月、ホーム内で勉強会の時間を設ける。	1年
4	10	家族の訪問時に意見を聞き、運営推進会議でも事前に意見の提出を受けるなどを行う。また、お便りの定期的発行回数の増加を行う。	・ご家族の意見や要望を聞き、職員間で共有する。 ・ご家族へのお便りの発行を定期的に行う。	・個別にご家族の意見、要望を記入して職員間で情報共有する事の出来る記録を整備し、活用する。 ・隔月にご家族へのお便りを作成して情報提供を行う。	1年
5	35	災害時に必要な備蓄品等の準備と職員の救急救命訓練を定期的に行う。	・災害備蓄品を速やかに整備する。 ・全職員が救急救命講習を受講する。	・本社と協同して災害備蓄品を整備する。 ・全職員が救急救命講習を受講出来るように消防署と調整を行い、受講する。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。